



「お薬代」を見直しましょう!

「ジェネリック医薬品」は、もっとも簡単な医療費節約法です

増加傾向にある日本の医療費を抑制するため、ジェネリックの活用が進められています。みなさんにとっても、お薬代の節約になるだけでなく、今後の掛金(保険料)の上昇を抑えることにもつながるため、大きなメリットがあります。

薬局で、あなたは大丈夫?

こんな行動が医療費のムダにつながります!

1

ジェネリックを使わない



ジェネリックを敬遠するのは、一度試してからでも遅くありません。「お試し調剤」なら、短期間分を処方してもらうこともできます。

2

夜遅くに行く



営業時間内であっても、8時前や19時以降(土曜日は13時以降)、日曜日等は、余分に医療費がかかることがあります。

3

お薬手帳を持っていない



「お薬手帳」を持参すると、医療費が少し安くなることがあります。また、残薬の管理や、薬の重複を防ぐなどのメリットもあります。



小さなムダが積み重なると、結果として大きな負担になることもあり得ます!

窓口負担以外の医療費を支払うのは共済組合ですが、もとはみなさんの掛金(保険料)です。小さなムダが積み重なると、共済組合の財政悪化につながり、掛金の引き上げという大きな負担になる可能性もあります。しかし、裏を返せば、小さなムダをみんなで省いていけば、掛金の上昇を抑えることにもつながります。ご協力をよろしくお願いします。

目標は、
2020年9月までに
ジェネリック
使用割合**80%**

ジェネリックが新薬の約2~7割と低価格なのは、新薬に比べて開発コストが少ないためです。一方、有効性・安全性は厳しくチェックされ、新薬と同等であると認められています。つまり、ジェネリックの活用は、医療の質を落とすことなく、医療費を抑制することにつながります。

当組合の第2期データヘルス計画では、2020年9月までに使用割合を80%となるよう目標設定しています。

当共済組合のジェネリックの普及率(使用割合)実績と目標

